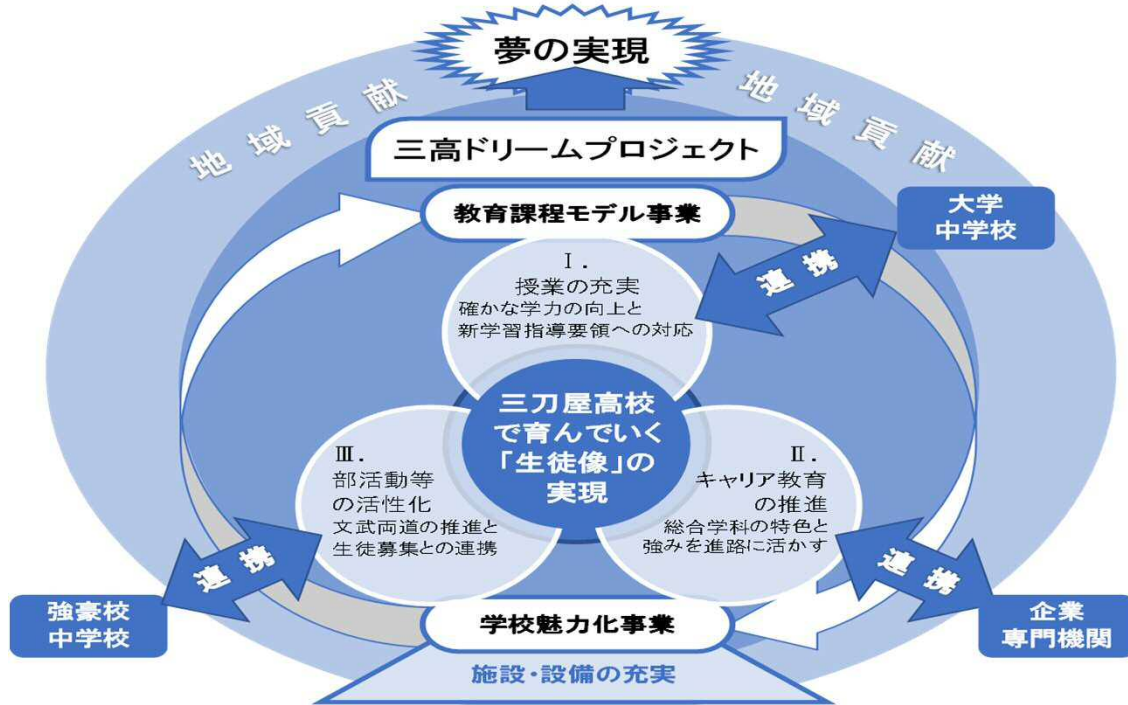


三高ドリームプロジェクト

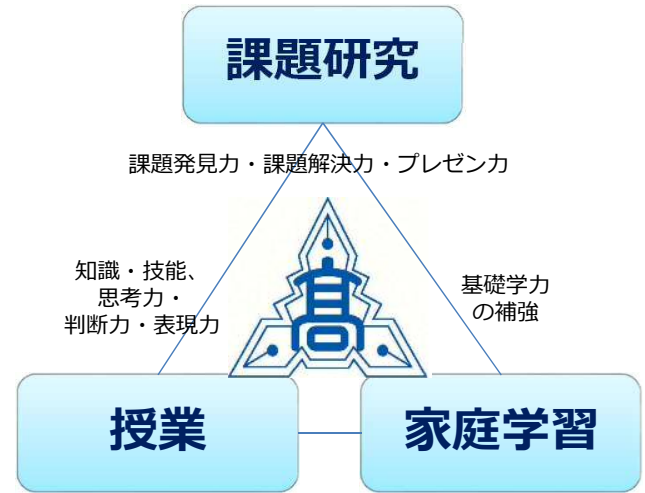
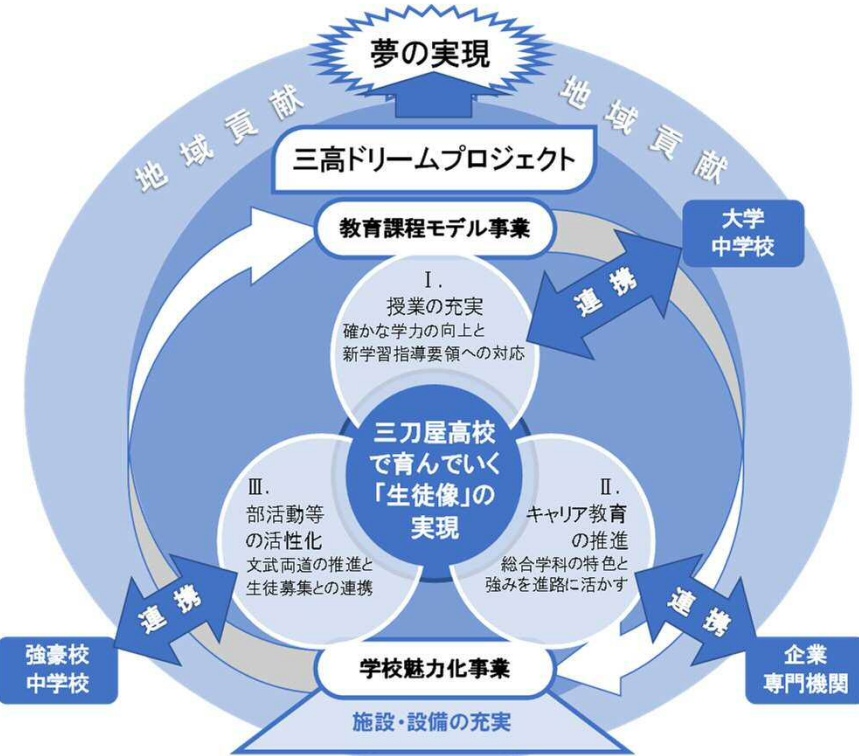


三刀屋高校2018（H30）年度 三刀屋高校キャリア教育の流れ

三高ドリームプロジェクト

三高トライアングル学習

～授業・家庭学習・課題研究の有機的結合を目指して～



H29年度実施したこと

① 総合学習の抜本的なプログラム改変

→次期学習指導要領を見据えた「探究的な学び」を行うためのプログラム変更

② 総合学習の体制作り

→総合学習を「チーム教員」で行っていくための体制作り

→教員だけではない「地域に開いた」授業運営

③ 総合学習の事前共有会、振り返り会の実施

→総合学習の「授業改善」を行っていくための振り返り文化構築

① 総合学習の抜本的なプログラム改変

● 育てたい生徒像を全教職員で熟議



● 各教科ごとに授業内容を開発中 (社会探究ゼミ)

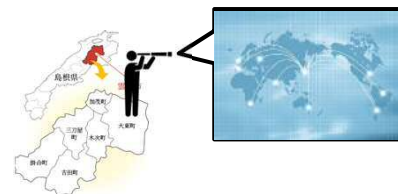


▶ 育みたい生徒像、育てたい資質・能力を全教員で研修を通じて熟議。研修を踏まえつつ、総合学習カリキュラムの抜本的な改変を行った。上記の大きな流れを意識しつつ、今年度の総合学習に関してはマイナーチェンジを行っていった。

目指したい生徒像と育みたい力

■目指したい生徒像 (H29学校経営目標より)

「ふるさとを愛し、高い志を持って社会に貢献する人材」
⇒高い学力と実践力を持ち、世界を見据えながらも
主体的かつ創造的に地域が抱える課題解決に取り組む人材



■目指したい生徒が持つべき資質・能力 (17.09.22 モデル事業教員研修会における意見交換よりまとめ)



資質・能力	概要
①広い視野(多角的な視点)	多角的な視点で物事を捉える力
②当事者意識(主体性)	身の回りの課題や所属するコミュニティに対して自分の問題として捉える力
③目標設定力(計画力)	自ら高い目標を設定、目標の実現に向けて計画を立てる力
④思考力(批判的)	問題の原因や構造を深く考え、因果関係を整理する力
⑤実践力・実行力	掲げた目標や解決したい課題に対して、一歩踏み出して行動する力
⑥自己主張・自己表現	自分の気持ちや考え、意見を相手に伝える力
⑦協働する力	異なる世代・背景や価値観を持つメンバーとも協働して物事を進める力
⑧振り返る力(メタ認知)	目標に対して、自身の現状を客観的に見つめて改善する力

H29年度-H30年カリキュラムの大きな変更点

■カリキュラム変更点

①「フレッシュマンセミナー」を2泊3日から1泊2日に変更する

⇒合宿の中で行っていた職業調べを「課題研究Ⅰ」の内容と重複するため、課題研究Ⅰで扱うことで対応する

②探究学習への動機づけをおこなうプログラム「社会探究ゼミ」の新設

⇒1年次の最初に、学びへの意欲や探究活動に対する動機づけを行うためのプログラムを実施する

③探究学習に必要なスキルを学ぶ「探究スキルゼミ」の新設

⇒H29年度まで実施の「図書館からはじまる学びのガイド」の内容を拡充して、探究学習に必要なスキルを身につけるプログラムをキャリアチームで担当する

④1年次の課題研究の名称を「地域産業研究」から「未来創造探究Ⅰ（課題研究Ⅰ）」への名称変更

⇒内容は大きな変更はなく、H29年度の内容をもとに反省点を活かしたマイナーチェンジをおこなう

⑤2年次「未来創造探究（課題研究Ⅱ）」を「個人研究」から「グループ研究」へと変更する

⇒個人研究による教員のフォローの肥大化と探究の質の向上を目指して、グループ研究をおこなう

⑥「未来創造探究Ⅰ」「未来創造探究Ⅱ」とともに、担任・副担任・学年付を含めた学年団全体でのフォローをおこなう

⇒授業の関係により学年団総動員は難しいが、1人1人の負担感を軽減するためにも可能な限り学年団全体でのフォロー体制を敷く

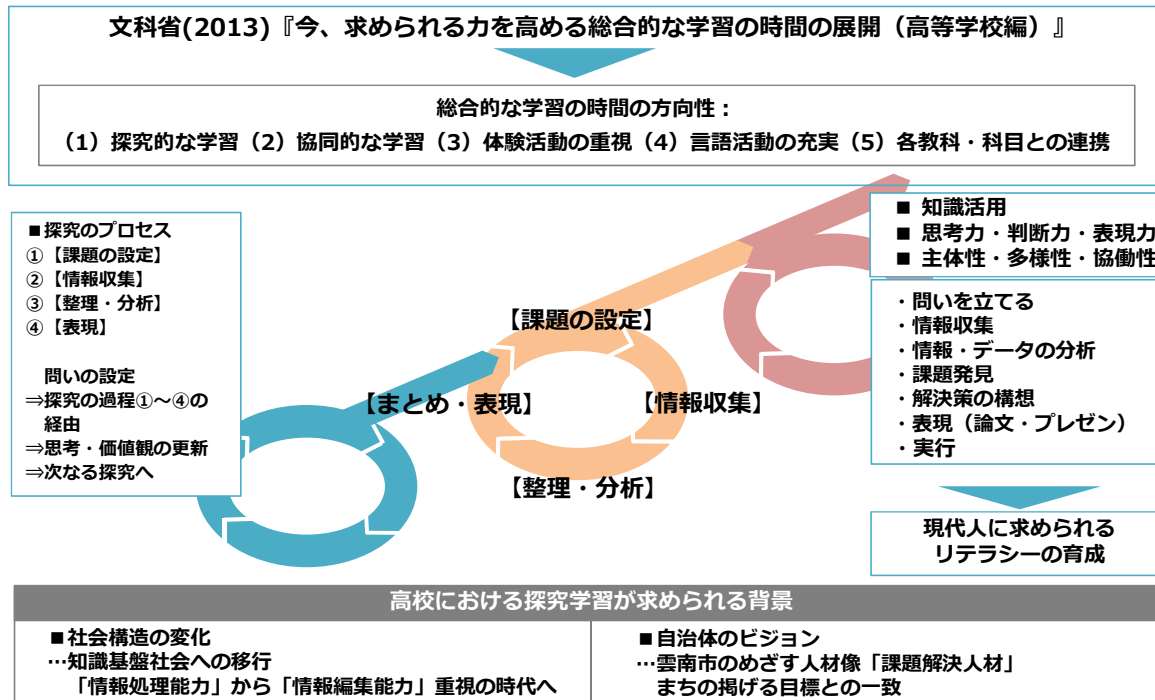
⑦課題研究の成果として、「論文」を作成することで、課題研究と進路の接続をはかる

⇒個々の進路実現(推薦入試等の活用)を見据えた形で課題研究の成果物を作成する

H30年度 3年間の総学・産社を中心とした「探究学習カリキュラム」

H30年度 改定案		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	目的	生徒間の関係構築	[HOP] -探究の動機づけとスキルを学ぶ-			[STEP] -探究のやり方を学ぶ-					[JUMP] -探究の実践-		
	内容	フレッシュマンセミナー	社会探究ゼミ		探究スキルゼミ	未来創造探究Ⅰ（課題研究Ⅰ）						未来創造探究Ⅱ（課題研究Ⅱ）	
2年生	目的	[JUMP] -探究の実践-									課題研究と進路をつなげる		
	内容	未来創造探究（課題研究Ⅱ）										論文作成	
3年生	目的												
	内容	課題研究と進路をつなげる 志望理由書											

「探究カリキュラム」の前提となる三刀屋高校なりの考え方

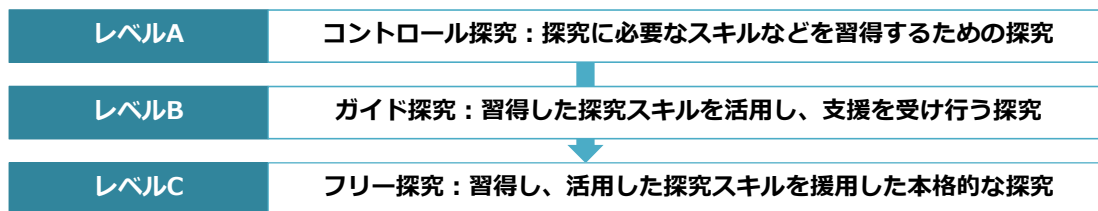


三刀屋高校の「探究カリキュラム」は上記をベースに全て設計されている

探究学習の種類とレベル分けによる段階的な「探究カリキュラム」

探究学習は、教師や周りの大人が探究を進める道筋をどれだけ示すかによって、「コントロール探究」「ガイド探究」「フリー探究」の3つのレベルに分けられる。

探究活動のレベル	探究の内容	問いの生成	探究の 手順/手法
レベルC フリー探究	問いも手順もすべて生徒自身で準備する、本格的な探究	生徒が考える	生徒が考える
レベルB ガイド探究	指導者が問いや手順を生徒が選択できるように用意し、支援する探究		
レベルA コントロール探究	指導者が用意した問いと手順にしたがって学習する、トレーニングのための探究		



出典：思考を深める探究学習 アクティブ・ラーニングの視点で活用する学校図書館 桑田てるみ 2016

1年次は「**コントロール探究**」→探究の「型」を先生方にリードしてもらいながら学ぶ。

2年次は「**ガイド探究**」→1年次で学んだ型を「実践」しながら生徒自ら学んでいく。

実際の総合学習の授業風景

■ H29年度実施の授業風景 (1年生)

■ 課題設定

先生方に研究チューターとしてついでに
研究していくテーマ(課題設定)を行う。



■ まとめ・表現

研究内容をメンターの先生と共に深め、
中間発表で専門家から研究内容
に対してフィードバックをもらい、
最終発表で研究の成果発表を行う。



■ 情報収集

テーマの知識・背景情報などを
インターネットや書籍を使って
チームで調べていく



■ 整理・分析 (フィールドワーク)

研究テーマを頭だけで考えるのではなく、
実際のテーマの現場に足を運び、
そこで課題に向き合っている
大人からヒアリングを行う。
現場で見て聞いてきたことを踏まえ、
更に研究を深めていく。



② 総合学習の体制作り

● 先生方の研究チューター制度実施



● 地域の方々と先生方が一緒に授業



【先生方】

→生徒たちの課題研究のチューター（研究指導者）として1人4班程度の班を持って指導

【地域の方々】

→課題研究のテーマ掘り下げ、中間発表のフィードバックをする役割として授業をサポート

●トークフォークダンス



【授業意図】

→生徒たちの心の奥底から思っている「興味関心」と「課題研究」にしていくテーマを紐づけていくために地域の大人に話をして自分の考えをまとめていく。（課題研究の“やらされ感”の克服。）

●マシュマロタワー



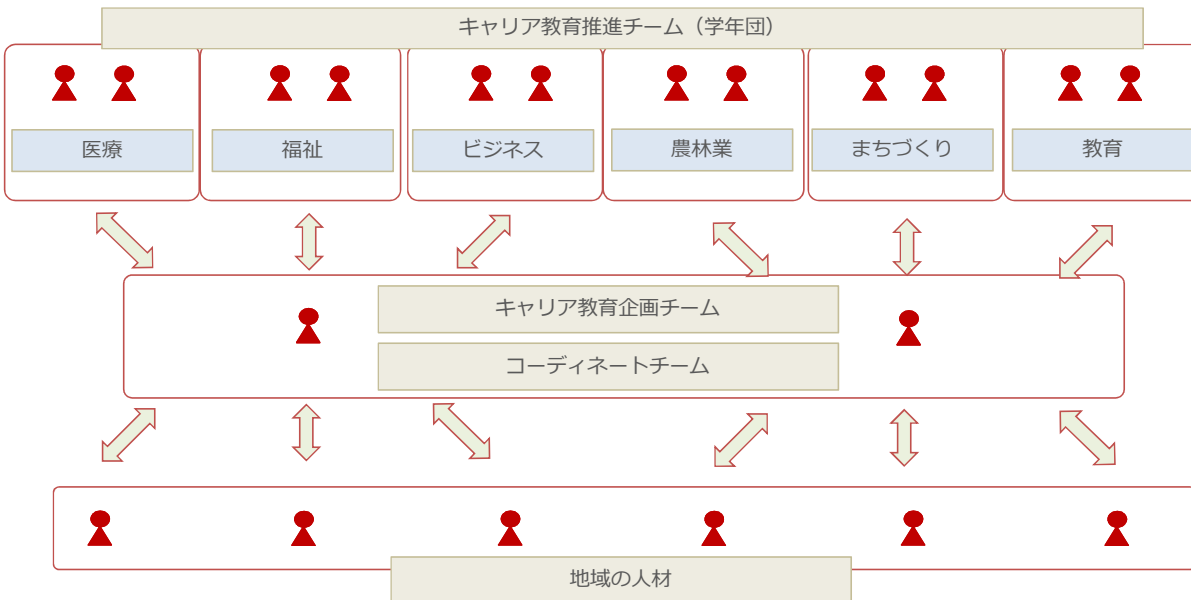
【授業意図】

→自分の知ってる友達以外と人間関係を築いていくことが苦手な島根県の子達が「安心・安全」な状態で課題研究を行っていくためのチームビルディング。（チームで「協働」していくための土台作り。）

課題研究Ⅰ・Ⅱ 指導体制案



実施体制役割図



【学年団教員の役割】

- 授業内
 - 担当の探究班の伴走
 - 課題設定支援
 - 研究計画設計支援
 - 振り返り支援
 - アクションプラン設計支援
 - 関係の質改善支援
- 授業外
 - 探究ノート(ポートフォリオ評価)へのコメントアドバイス
 - 学年団MTGにおける進捗共有

【キャリアチームの役割】

- 授業の企画・設計・開発
- 各探究コースの進捗管理
- 各探究コースの地域コーディネート

【地域の大人の役割】

- 専門的な観点・現場の観点からのフィードバック
- フィールドワークの受入れ

③ 総合学習の事前共有会、振り返り会の実施

●コーディネーターによる授業事前共有会



●先生方とコーディネーターの振り返り会



授業が忙しい先生方に代わり、コーディネーターが総合学習の授業の目的・意図などを、関わる先生方や、関わる外部の方々（地域の方々）に共有していった。

授業の振り返り会に関しては、先生方とコーディネーターで毎回一緒に行った。生徒の反応や授業進捗を踏まえて、授業改善を地道に行っていていき「授業実施→改善」のサイクルを1年間回していった。

H30年度実施していくこと

① 「社会探究ゼミ」の実施

→教科学習×総合学習の有機的な繋がりを持った授業の実施

② ルーブリック評価・ポートフォリオ評価の実施

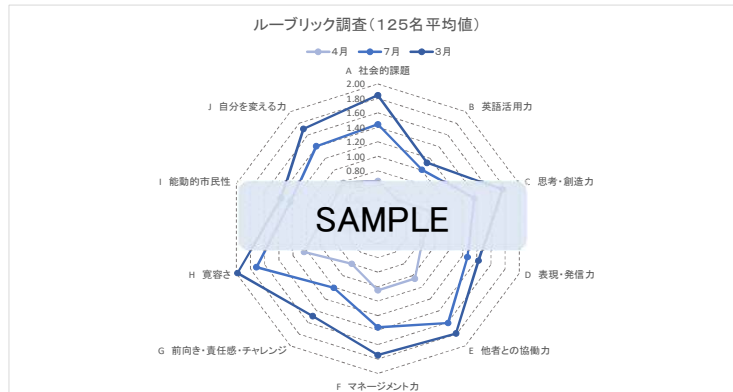
→社会探究ゼミを中心に各教科で授業の「効果検証」を行っていく仕組み作り
(授業改善を学校全体で行っていく機運作り)

③ 探究ノート・探究チューターガイドブックの開発

→生徒の探究活動の質、先生の探究サポートの質を上げていくための共通の
ガイドブックの開発

② ルーブリック評価・ポートフォリオ評価の実施

→社会探究ゼミを中心に各教科で授業の
「効果検証」を行っていく仕組み作り
(授業改善を学校全体で行っていく機運作り)



ルーブリック評価

概要：学校として育みたい資質・能力の定義とレベル分けをして、目指すべき姿に対しての段階的な成長を後押しするために自分の現在地を一連の活動のプロセスやパフォーマンスから自己評価、他者評価するもの

福島県立ふたば未来学園高等学校 人材育成資料・ルーブリック(7 July 2015 Ver.)				
学力姿	ルーブリック	レベル1	レベル2	レベル3
知識	A	社会現象や社会問題について、歴史・社会的背景や因果関係を理解する。社会的課題を認識する。	社会現象や社会問題について、歴史・社会的背景や因果関係を理解する。社会的課題を認識する。	社会現象や社会問題について、歴史・社会的背景や因果関係を理解する。社会的課題を認識する。
問題解決力	B	問題解決のコミュニケーションが得意なようになり、自ら課題を解決できる。	問題解決のコミュニケーションが得意なようになり、自ら課題を解決できる。	問題解決のコミュニケーションが得意なようになり、自ら課題を解決できる。
読解・読書力	C	読書が得意になり、読書を通して様々な知識や情報を得ることができる。	読書が得意になり、読書を通して様々な知識や情報を得ることができる。	読書が得意になり、読書を通して様々な知識や情報を得ることができる。
表現・発信力	D	自分の考えや意見を表現できる。表現を通して自分の考えや意見を伝えることができる。	自分の考えや意見を表現できる。表現を通して自分の考えや意見を伝えることができる。	自分の考えや意見を表現できる。表現を通して自分の考えや意見を伝えることができる。
協働・協働力	E	協働を通して様々な課題を解決できる。協働を通して自分の考えや意見を伝えることができる。	協働を通して様々な課題を解決できる。協働を通して自分の考えや意見を伝えることができる。	協働を通して様々な課題を解決できる。協働を通して自分の考えや意見を伝えることができる。
探究・探究力	F	探究を通して様々な課題を解決できる。探究を通して自分の考えや意見を伝えることができる。	探究を通して様々な課題を解決できる。探究を通して自分の考えや意見を伝えることができる。	探究を通して様々な課題を解決できる。探究を通して自分の考えや意見を伝えることができる。
社会・社会力	G	社会を通して様々な課題を解決できる。社会を通して自分の考えや意見を伝えることができる。	社会を通して様々な課題を解決できる。社会を通して自分の考えや意見を伝えることができる。	社会を通して様々な課題を解決できる。社会を通して自分の考えや意見を伝えることができる。
キャリア・キャリア力	H	キャリアを通して様々な課題を解決できる。キャリアを通して自分の考えや意見を伝えることができる。	キャリアを通して様々な課題を解決できる。キャリアを通して自分の考えや意見を伝えることができる。	キャリアを通して様々な課題を解決できる。キャリアを通して自分の考えや意見を伝えることができる。
総合的な学習力	I	総合的な学習を通して様々な課題を解決できる。総合的な学習を通して自分の考えや意見を伝えることができる。	総合的な学習を通して様々な課題を解決できる。総合的な学習を通して自分の考えや意見を伝えることができる。	総合的な学習を通して様々な課題を解決できる。総合的な学習を通して自分の考えや意見を伝えることができる。

SAMPLE

ポートフォリオ評価

概要：ポートフォリオ評価は、学習の過程で創出されたものをファイルに蓄積することで、自らの学びのプロセスを振り返り、自己評価するもの。客観的に自分の学習を振り返るためメタ認知を育てることを意図する。



パフォーマンス評価

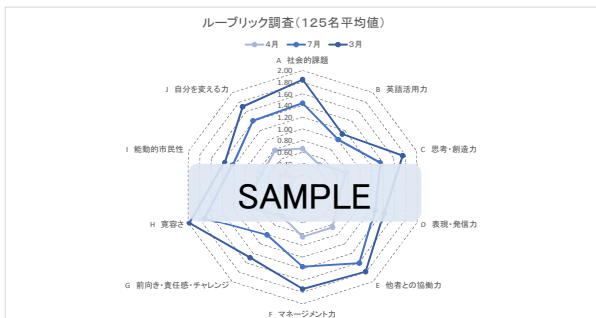
概要：プレゼンテーションやレポートなどの生徒が作成したものや発表したものを通じて、評価をするもの



プレゼンテーション



レポート



SAMPLE

生徒の資質・能力の評価の仕組み～ループリック～（学校全体ver）

現在作成途中

資質・能力	概要	Lv.1	Lv.2	Lv.3	Lv.4
①広い視野 (多角的な視点)	多角的な視点で物事を捉える力	自分の疑問に思うことや関心のあることを自分で見つけ、本やICTを活用して知識を得ている	地域や社会の課題について、本やICTを活用して知識を得て、理解をしている	社会の課題について、習得した知識を深掘りし、周辺情報や関連情報を集め理解している	地域社会やグローバル社会の課題に関係する知識を俯瞰してつなげ、人に説明できるレベルまで理解している
②当事者意識 (主体性)	身の回りの課題や所属するコミュニティに対してジブンごととして捉える力	所属するチームの一員として、消極的な発言・行動をしていない	所属するチームの一員として、目標の達成に向けて、意見を積極的にだすなど率先してチームに貢献をしている	所属するチームの一員として、目標達成のためにチームとして、個人として常に何をすべきか考えて、チームを牽引している	社会の構成員の一員として、自分の関心あるテーマや問題意識を持った課題に対して、自分のできることを考えて、行動している
③目標設定力 (計画力)	自ら高い目標を設定、目標の表現に向けて計画を立てる力	活動の目標設定をして、活動に取り組んでいる	活動の目標達成に向けて、計画を立てて取り組んでいる	目標達成に向けて、いつまでに何をしなければいけないか、逆算して、計画を立てることができている	実行していく中で計画が崩れた際にも立て直し、実現に向けて修正し、活動を進めている
④思考力 (批判的)	問題の原因や構造を深く考え、因果関係を整理する力	情報や課題の内容を理解・整理することができる	情報や課題について、関連する周辺知識を多角的な視点から洗い出すことができる	情報や課題に関連する周辺知識を多角的な視点から洗い出し、各情報を構造的に整理することができる	情報や課題を周辺知識とともに構造的に整理した上で、取り組むべき課題・検討すべき論点を自分なりに設定することができる
⑤実践力・実行力	掲げた目標や解決したい課題に対して、一歩踏み出して行動する力	自分の立てた目標に対して、後ろ向きな発言をせず達成に向けて努力している	チームで立てた目標に対して、達成に向けて、周囲にポジティブな影響力を発揮するように努めている	チームの目標が達成できるかわからない状況であっても、諦めずに最後までやりきる姿勢をみせている	困難にぶつかっても逃げずに自分の責任を果たし、失敗をしてもその失敗を糧とできる前向きな姿勢を持っている
⑥自己主張・自己表現	自分の気持ちや考え、意見を相手に伝える力	顔見知りのメンバーで構成されたグループであれば、自ら自分の意見や考えを伝えることができる	クラスや学年などの集団の前でも、自ら自分の意見や考えを伝えることができる	学外の人(地域の大人)に対しても、自ら自分の意見や考えを伝えることができる	誰に対しても、どんな場でも、物怖じせず、自信を持って自分の意見や考えを伝えることができる
⑦協働する力	異なる世代・背景や価値観を持つメンバーとも協働して物事を進める力	所属するチームの一員として、消極的な発言・行動をしていない	所属するチームの一員として、目標の達成に向けて、意見を積極的にだすなど率先してチームに貢献をしている	チームや集団の中で、自分の役割を見つけ、自らの個性を活かすとともに、チームメンバーの個性を引き出すことができる	互いの良い部分や個性を引き出しながら、互いに高め合う同士として時には厳しいことも指摘し合える信頼関係をつくれる
⑧振り返る力 (メタ認知)	目標に対して、自身の現状を客観的に見つめて改善する力	自ら立てた目標に対して、「できたこと」「できなかったこと」を振り返っている	自ら立てた目標に対して、「できたこと」「できなかったこと」とその「要因」も含めて振り返り、改善をしている	振り返った事実から、自らの日常の行動習慣や行動/思考パターンの特徴や特性を考へることができる	振り返った事実から、自分の行動や発言がどういった自分の価値観に起因しているのかを考へることができる

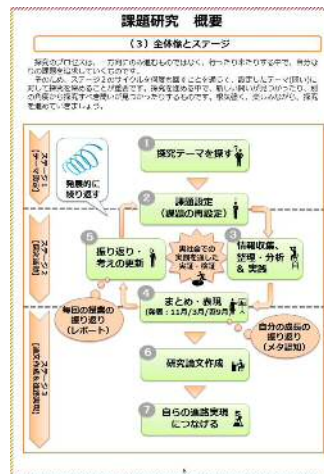
各教科での指導重点項目のルーブリック作成（各教科ver）

現在作成途中

三高生に求める資質・能力を育てるために各教科で行う取り組み											○をつけた資質能力を育むために何ができるか			
資質・能力	概要	国語	地歴 公民	数学	理科	保健 体育	芸術	英語	家庭	商業	産社・ 総学	学校 行事	授業・教授法	評価・テスト
①広い視野 (多角的な視点)	多角的な視点で物事を捉える力	○	○	○	○	○							【国語】 様々な文章に触れる。 【地歴公民】 授業において多角的に考えるチャンスが多い教科であるので、その部分を強調しながら指導していく。 【数学】 問題に対して 【理科】 単元、他教科、実生活…授業へ入れる。 【保健体育】 インターネット・新聞を活用する。	【地歴公民】 テスト問題の工夫、論述の指導など 【数学】 場合分けを含むテスト、分野を超えたテスト 【理科】 総学、課題研究
②当事者意識 (主体性)	身の回りの課題や所属するコミュニティに対してジブンごととして捉える力					○						○	【保健体育】 身近な健康問題から考えさせる。 【産社・総学】 研究テーマの設定、フィールドワークでの活動 【学校行事】 積極的な提案	【産社・総学】 ワークシート、成果発表（PPT・論文等） 【学校行事】 LHRでの発言、感想、行動観察
③目標設定力 (計画力)	自ら高い目標を設定、目標の実現に向けて計画を立てる力					○						○	【商業】 取得したい級を決めさせ、毎時間の理解度を確認させる（Word Excel、簿記） 【産社・総学】 研究テーマの設定、研究計画書の作成、班別自主研修の計画	【商業】 小テスト、定期試験、自己評価シート、模範の含否 【産社・総学】 研究計画書、班別自主研修の計画
④思考力	問題の原因や構造を深く考え、因果関係を整理する力	○	○	○	○	○	○	○					【国語】 定期的に思考力を問う発問をする。答えが無い問いについて考えさせる。 【地歴公民】 資料・史料・グラフなどを用いて考えさせる機会を積極的ににつけていく。 【数学】 学年単元で1単元1時間、思考力を鍛える授業をする。 【理科】 ヘア、グループ学習、問の工夫 【保健体育】 グループ学習により深める。 【芸術】 創作活動、鑑賞活動 【英語】 文章読解の際、情報を読み取る力や因果関係を意識して読み取る力を意識した発問を工夫する。 【商業】 模擬問題を通し、何を表現する、知らせる資料なのかを読み取る力を育成する。	【国語】 定期考査 【地歴公民】 テスト問題の工夫、論述の指導など 【数学】 定期試験の問題作成に反映させる。 【理科】 総合問題（テスト） 【芸術】 鑑賞活動の中のWSや意見交換より（音楽の要素に基づいた考え） 【英語】 定期試験問題の工夫 【商業】 テータから分かりやすく発表？
⑤実践力・実行力	掲げた目標や解決したい課題に対して、一歩踏み出して行動する力					○						○	【保健体育】 グループノートを作成し、各役割や目標設定を記録し、振り返りをしてグループの反省、個人の反省をすることにより、客観的に現状を把握する。 【産社・総学】 フィールドワークでの活動、班別自主研修での活動 【学校行事】 役割への参加	【産社・総学】 実習報告書、研修旅行のしおり等での振り返り 【学校行事】 役割への参加
⑥自己主張・ 自己表現	自分の気持ちや考え、意見を相手に伝える力	○				○	○	○					【国語】 ヘアワーク、グループ学習、記述の添削 【保健体育】 ⑤と同じ 【芸術】 歌歌、創作活動、鑑賞 【英語】 学期に1回程度のI/フォーマンス評価。各単元で話す活動、書く活動を日常的に行う。 【産社・総学】 グループワークでの発言、研究発表 【学校行事】 話し合いでの発言、合唱・応援合戦・デコレーション等	【国語】 発表、記述物の評価 【芸術】 WS、作品提出（根拠に基づいた作品+説明入りのもの） 【英語】 定期試験問題の工夫、発表活動などのパフォーマンス評価 【産社・総学】 研究発表 【学校行事】 LHRでの行動観察、合唱・応援合戦、デコレーション
⑦協働する力	異なる世代・背景や価値観を持つメンバーとも協働して物事を進める力				○	○	○						【理科】 グループ活動、実験 【保健体育】 ⑤と同じ 【芸術】 アリサッフル、合唱等 【商業】 グループ学習により振り返る	【理科】 建設的な意見、実験の評価に入れる。 【芸術】 振り返りシート、実技試験 【商業】 シートの作成（理解度）（メンバーの考え方の受け入れ）
⑧振り返る力 (メタ認知)	目標に対して、自身の現状を客観的に見つめて改善する力			○		○		○					【数学】 宿題、週末課題 【保健体育】 ⑤と同じ 【英語】 各授業または単元ごとの振り返り。テストノート、模範ノートの内容の充実。 【商業】 模擬問題を解いた後、振り返りによる。	【数学】 振り返りシート、直しノート 【商業】 シートの作成（自己評価）

③ 探究ノート・探究チューターガイドブックの開発

→生徒の探究活動の質、先生の探究サポートの質
を上げていくための共通のガイドブックの開発



来年度のカリキュラム実現のためのツール（現在作成中）

探究ガイドブック

概要：生徒の探究活動の指針になるツールです。探究の全体像がわかり、各探究プロセスにおけるガイドとツールがまとまったものです。



探究チューターガイドブック

概要：生徒の探究活動における学びを深め、サポートしていくための伴走者(メンター)としての関わり方のポイントがまとまったものです。



カリキュラム指導計画案・授業スライド

概要：よりよい探究活動にし、PDCAサイクルを回しよりよい探究活動をしていくためのノウハウ蓄積のためのツールです。

1. 単元目標	
2. 学習活動	
3. 評価	
4. 振り返り	
5. 評価	
6. 振り返り	
7. 評価	
8. 振り返り	
9. 評価	
10. 振り返り	
11. 評価	
12. 振り返り	
13. 評価	
14. 振り返り	
15. 評価	
16. 振り返り	
17. 評価	
18. 振り返り	
19. 評価	
20. 振り返り	
21. 評価	
22. 振り返り	
23. 評価	
24. 振り返り	
25. 評価	
26. 振り返り	
27. 評価	
28. 振り返り	
29. 評価	
30. 振り返り	
31. 評価	
32. 振り返り	
33. 評価	
34. 振り返り	
35. 評価	
36. 振り返り	
37. 評価	
38. 振り返り	
39. 評価	
40. 振り返り	
41. 評価	
42. 振り返り	
43. 評価	
44. 振り返り	
45. 評価	
46. 振り返り	
47. 評価	
48. 振り返り	
49. 評価	
50. 振り返り	
51. 評価	
52. 振り返り	
53. 評価	
54. 振り返り	
55. 評価	
56. 振り返り	
57. 評価	
58. 振り返り	
59. 評価	
60. 振り返り	
61. 評価	
62. 振り返り	
63. 評価	
64. 振り返り	
65. 評価	
66. 振り返り	
67. 評価	
68. 振り返り	
69. 評価	
70. 振り返り	
71. 評価	
72. 振り返り	
73. 評価	
74. 振り返り	
75. 評価	
76. 振り返り	
77. 評価	
78. 振り返り	
79. 評価	
80. 振り返り	
81. 評価	
82. 振り返り	
83. 評価	
84. 振り返り	
85. 評価	
86. 振り返り	
87. 評価	
88. 振り返り	
89. 評価	
90. 振り返り	
91. 評価	
92. 振り返り	
93. 評価	
94. 振り返り	
95. 評価	
96. 振り返り	
97. 評価	
98. 振り返り	
99. 評価	
100. 振り返り	



カリキュラム評価アンケート（生徒）

カリキュラム評価アンケート

2017年〇月〇日
作成者：

1. 授業前
 1. 原子的知識

2. 授業内容
 a. 原子的知識によって与えられた知識がミューティの再構築について理解する。
 b. エネルギー、コムーティ再生、産業再生等、新たな社会システム創造を構築する。
 c.

3. 学習する加齢
 a.
 b.
 c.

4. 想定
 a.
 b.
 c.

5. 育みたい力と評価方法

学習・能力要件	育みたい力
知識・技能	
思考力・判断力・表現力	
学びに向かう姿勢・人間性	

6. 年間計画表

	内容	重要なイベント
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		3年生授業最終発表会
10月		
11月		
12月		授業プレゼン発表会

カリキュラム評価アンケート（教員）

カリキュラム評価アンケート

2017年〇月〇日
作成者：

1. 授業前
 1. 原子的知識

2. 授業内容
 a. 原子的知識によって与えられた知識がミューティの再構築について理解する。
 b. エネルギー、コムーティ再生、産業再生等、新たな社会システム創造を構築する。
 c.

3. 学習する加齢
 a.
 b.
 c.

4. 想定
 a.
 b.
 c.

5. 育みたい力と評価方法

学習・能力要件	育みたい力
知識・技能	
思考力・判断力・表現力	
学びに向かう姿勢・人間性	

6. 年間計画表

	内容	重要なイベント
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		3年生授業最終発表会
10月		
11月		
12月		授業プレゼン発表会

- ✓ カリキュラムのPDCAを回すために、授業の取り組みの中で生徒の反応をみることはもちろんですが、学期ごとに生徒・教員にそれぞれカリキュラム評価のアンケートで意見をもらうことを想定しています。